



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

中東和平：イスラエルとパレスチナの対立が過熱

米国が設定した中東和平交渉の期限切れ（4月29日）を前に、イスラエルとパレスチナは、パレスチナ人囚人の釈放をめぐり対立を強めていた。パレスチナ側は、3月29日に予定されていた囚人釈放（4回目）をイスラエルが実行するかどうかで、今後の対応を決めるとした。他方イスラエルは、同釈放の実施は、パレスチナ側の交渉に対する対応によって決めると牽制した。3月29日、イスラエルは、パレスチナ人囚人釈放を実施しなかった。これに対してパレスチナ側は、4月1日、アッバース大統領が15の国際機関・多国間条約へ「国家」として加盟するための申請書に署名した。しかしイスラエル側は、同申請は、パレスチナ側の一方的な措置であるとして、パレスチナ人囚人釈放を中止（4月3日）し、パレスチナに対する報復措置を実施するとした。イスラエルとパレスチナは、相手の行動を一方的措置だとする非難の応酬をさらに激化させた。

3月に入り、パレスチナ人囚人釈放をめぐりイスラエルとパレスチナの対立が深まったため、米国のケリー国務長官は、3月26日、伊国訪問をキャンセルしてヨルダンに向かい、アンマンでアッバース大統領と約4時間会談した。同長官は、3月31日イスラエルを訪問してエルサレムでネタニヤフ首相、PLOのエラカート交渉局長と個別に会談した。3月下旬頃には、状況を打開するためのパッケージ案が報道で取り沙汰された。同案は、1)イスラエルは、4回目のパレスチナ人囚人を実施する、2)パレスチナは4月末に来る交渉期限の延長に同意する、3)米国はイスラエルが求めるジョナサン・ポロード（米国で終身刑の宣告を受けて服役中のイスラエルのスパイ。注参照）を釈放するというものだった。ケリー国務長官は、その後、アッバース大統領と会談するため現地を訪問する予定だったが、4月1日、アッバース大統領が国際機関への申請書に署名したため、パレスチナ訪問を中止した。

米NYT紙（4月1日）やWP紙（4月4日）は、オバマ政権内部で、イスラエルとパレスチナの行動に対するいらだちが増大しており、ケリー国務長官の仲介努力は限界にきたとの議論が出ていると報道した。4月3日、アルジェリア訪問中のケリー国務長官は、当事者に妥協する用意がないのであれば、米国の仲介にも限度があると述べた。同長官は、翌4日には訪問先のモロッコで、米国に何ができるか再検討すると発言した。ケリー国務長官は、モロッコ訪問の後、ワシントンに戻り、オバマ大統領と協議を行うと報道されている。

4月5日、イスラエルのリブニ司法相は、これまでの交渉は米国と交渉しているようなものだったとして、イスラエルとパレスチナは直接交渉を開始すべきだと主張し、ネタニヤフ首相とアッバース大統領に直接会談するよう求めた。両首脳は、昨年7月末に交渉が再開した後も、まだ1回も会談していない。4月6日エルサレムで、米国のインデック特使がイスラエルのリブニ司法相、パレスチナのエラカート交渉局長との協議を行ったが、事態を改善することはできなかったと報道されている。

## ・評価

2013年3月、イスラエルを訪問したオバマ大統領は、イスラエルに交渉を進める意思があるならば米国は交渉を支援するが、イスラエルにその意思がないなら米国は動かない方針を示した。交渉期限切れを前に、イスラエルとパレスチナの間で政治的な駆け引きと非難の応酬が過熱しているが、両者の行動の背景には、米国のさらなる仲介努力を期待する部分がある。しかし、オバマ政権は、当事者の政治判断を優先する基本的な姿勢を改めて明確にした。またパレスチナ側が問題視している20数名の囚人釈放も、イスラエル側が反発しているパレスチナの国連機関・多国間条約への加盟申請も、交渉の重要な課題ではない。交渉の本筋から外れた問題で、交渉が紛糾する状況に米国が失望するのは当然だろう。4月末の交渉期限切れまで、米国ではなく、イスラエル・パレスチナがどう動くかが今後の焦点になる。

### 注：ジョナサン・ポラード事件

米国海軍の情報分析官だったジョナン・ポラードが、衛星情報をイスラエルに渡して逮捕された事件。ポラードは、1985年に逮捕された際、在ワシントンのイスラエル大使館に逃げこもうとして拒否された。ポラードは、1987年に終身刑の判決を受けた。同人は、1995年にイスラエル市民権を獲得、1998年イスラエルはポラードがイスラエルのスパイであることを公式に認めた。その後、イスラエルの歴代政権はポラードの釈放を要請してきたが、米国政権に拒否され続けてきた。米国政府がポラードの釈放を検討したと報道されたのは、今回が初めてである。共和党、民主党、情報機関関係が、今回もポラード釈放に強く反対したと報道されている。30年以上も前の事件であり、多くの米国人が忘れていたと報道されているが、今でもイスラエルと米国の間にある深刻な溝であることに変わりはない。ポラード事件の亡霊が浮上したと表現したメディアもある。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799